

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2011年
10月6日(木)
第44号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

10・2「新システム」反対東京集会おおきく成功 770人の怒りと行動への思い渦巻く

10月2日、日本教育会館大ホールで「ストップ!『子ども・子育て新システム』子どもの笑顔と親の安心を守る東京集会」が開催され、会場を埋める770人が参加しました。

メインの企画であるシンポジウムでは、長らく保育など子育てに関する調査や報道にかかわってきたジャーナリストの猪熊弘子さんをコーディネイターに、帝京大教授で保育研究所所長の村山祐一さん、練馬区立向山保育園園長の安川信一郎さん、柚木武蔵野幼稚園教諭の藤田久美子さんが、各分野の視点から発言。

猪熊さん 保護者がワークライフバランスなど考えられない状況で必至で働いている。子育てが孤立化している。87%の母親が「子育てがづらい」と思っている。「新システム」に対しては、自己責任の浸透で「自分で選べる」、認可園に入れないあきらめ等から期待がある。しかし、「新システム」は、親が保育にかかわって親自身が育っていくことを困難にし、預けるだけの関係になる。親が勝ち組・負け組に分かれる。子育てがお金次第になる。ますます子育てがづらいもになる。「新システム」は保育園を丸ごと民営化するものと指摘。

村山さん 国の待機児童対策は15年も経過するが増え続けている。認可園をつくるのが解決策だが、待機児童を口実に「新システム」を導入しようとしている。2010年の子ども手当の1割弱を回すだけで1年間10万人分の保育所整備費が出る。「新システム」の特徴として、市町村の保育実施責任が廃止され、指定制度とは事業主が責任を持つ制度になる。保育所運営費・私学助成費・施設整備補助金・保育料軽減補助金制度が廃止されること。大田区は1出張所に1ヶ所の公立保育園に削減する計画だが、公立保育園は「新システム」は弱者だけを受け入れるところになると指摘。

練馬区からの委託保育園の園長の安川さん 「猛烈に腹が立っている」と前置きしつつ、「新システム」になったら、収入の少ない人や手のかかる子は経営を考えたらよけ、保育時間の長い子優先になる。スポット利用を含め、利用料の把握、領収書など事務作業が膨大になる。現在人件費比率は85%ぐらいだが、給与の削減、安い保育士をいれることになる。処遇が違い、職員集団としての保育が困難になる。保護者も保育所探しで大変、逆選択になる。経済的に大変で子育てに困難抱えたてている人が入れなくなる。生まれたときから格差が生まれることになる。小学校に待機児童はいない、国がやる気になれば待機児童解消は出来る。船井総合研究所は「不況でも急成長する業界があります。それが保育所です」とうたっており、参入は利潤追求と指摘。

藤田さん 御岳合宿での子どもの成長や地域の協力を得ての田んぼの活動を手をかけて作り上げていることを紹介しつつ、「新システム」は、親が子育ての喜びをつかみ親同士が共有できる「手間をかける」ことが困難になる。幼稚園がサービス産業になる。保育の質の低下、行事のイベントへの変質、労働条件の劣悪化を招くと指摘。

特別報告では、ビジョンハーツに勤務する保育士から、中野区からの委託園で、ちょっとしたことで感情的に子どもをしかったり、腕をつかんで揺するなどの実態やそれに同調しないことで、さまざまな嫌がらせや退職強要されていることを報告。

続いて「赤ちゃんの急死を考える会」の小山さんは、自らも13年前に子どもを保育所でなくしたことに触れつつ、子どもを死なせることが1回にとどまらない保育所、責任者がフィットネスクラブに行っていて子ども死なせた石垣の例、泣きやまないとうつぶせにし更に毛布を被せて死なせた例、年長が走り回るところに寝かせられ腹を踏まれて死んだ例など紹介し、「新システム」導入の問題を指摘しました。

大爆笑の寸劇、決意が語られたリレートーク

シンポの後は、福祉保育労東京地本と東京自治労連保育部会のみなさんによる寸劇「新システムになったら」は、保育園探しのお母さんを主役に、区役所と保育園の対応を演じ、爆笑につぐ爆笑でしたが、「本当にこうなったらと深刻に考えた」との感想も寄せられました。

リレートークは、小金井市立くりのみ保育園の保護者の安田さん・本田さん、東京自治労連保育部会の高橋さん、福祉保育労東京地本の中村さん、障害をもつ子どものグループ連絡会の矢澤さん、千住あさひ共同保育園の大野さんからそれぞれ決意が語られました。

最後の行動的を含む集会アピールを確認して閉会しました。

決意に満ちたアンケートが沢山！

集会参加者から 124 通のアンケート寄せられました。いくつかをご紹介します。

公立保育士 20 才代女性 「新システム」がどんなシステムなのか、とてもよく分かる内容でした。難しい説明だけでなく、色々な職業から見た内容を聞くことが出来て本当に良かったです。「新システム」をストップできるように活動に参加したいと思います。

保護者 40 才代女性 「新システム」は保護者にとって入所し難さ、保育料など気になる点があったので参加しました。そんな目先の問題だけでなく、死亡事故のこと、障害者の保育の問題、認証のこと、企業の保育園の問題。あまりに多くの問題をはらんでいて、正直ドキドキしてしまいました。それとともに“怒”がムラムラとわいてきました。どうしてもストップしたい。やれることから始めていこうと思います。ありがとうございました。

民間保育士 30 才代女性 幼稚園の方のはなしを聞く機会があまりなく、今回聞いてよかった。一緒に活動していきたいと心強く思った。

民間保育士 30 才代女性 日々の保育で疲れている中、こちらに来ることを悩んでいたのですが、やはり足を運んで良かったです。こどもと親のため、そして働く私たちのためにも早く広げ行動にうつさなきゃと思いました。

栄養士 20 才代女性 子どものため、私たちのためにも今ががんばりどきだと痛切に感じます。署名は園で 5000 目標です。まずは知ってもらい、周りの人に広め、政府に訴えて行きたいと思いました。

民間保育士 20 才代男性 様々な立場から濃い内容の話が聞けて本当に学習になりました。「新システム」は絶対に反対です。

公立保育士 40 才代女性 大変密度の濃い集会でした。改めてこの制度の悪質さに腹がたちました。今、皆で力を合わせて確実に阻止することが未来の子どもたちへのせめてもの贈り物になるように頑張っていきたいです。

公立保育士 20 才代女性 特別発言のピジョンハーツの保育について、すごくショックでした。その様な保育がなされている現状が許せません。保育が金もうけななることは保育士としてあり得ない。保育の質を高めていくことが大切な中で、新システム導入への反対は絶対だと感じました。

公立保育士 50 才代女性 「小学校には待機児がない」との発言に「そうだ！」と思いました。子どもの育つ権利を切り崩すことは絶対に許してはいけません。親に一人一人が伝えていくことが大事と、改めて自分のやるべきとが見えてきました。あきらめたらおしまい！あきらめず声を出して子どもを守っていききたいです。

民間保育士 20 才代女性 それぞれの講師の方のためになる話が聞けて本当に良かったです。寸劇も分かりやすく面白かったです。この劇を本当に笑えなくなる日が来ると思うと恐ろしいです。でもこんなにも頼もしい仲間がいるんだととてもうれしく思いました。ありがとうございました。

【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください。配信希望者は氏名と所属、「保育闘争委ニュース希望」と明記し、パソコンよりメールでお申し込みを。内容を圧縮した「携帯メールニュース」は携帯からメールでお申し込みを】